

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105073
法人名	有限会社 いろり
事業所名	グループホーム いろりの家
訪問調査日	平成 22 年 3 月 13 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105073
法人名	有限会社 いろり
事業所名	グループホームいろりの家
所在地	鹿児島市坂之上6丁目20-30 (電話) 099-262-4647

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年3月13日
評価確定日	平成22年4月22日

【情報提供票より】(22年 2月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤 4 人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	光熱費(月額)	7,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	— 円
	または1日当たり	1000 円		

(4) 利用者の概要(2月 12日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低 63 歳	最高 88 歳		

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	三宅病院 古川胃腸科クリニック ゆのうえクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の南部、坂之上地区に「いろりの家」と書かれたぬくもりのある木の看板が見える。近隣には駅、スーパー、交番、大学があり利便性のよい環境にある。グループホームいろりの家(住む)は、併設されているデイサービス(通い)宅老所(泊まり)と連携して介護サービスを提供している。「ゆっくり、楽しく、いっしょに」を理念に掲げ、利用者と職員の時間がゆっくりと穏やかに流れている。運営者は「職員が自慢です」と話され、家族、地域の方も一緒に利用者の暮らしを支えている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、運営推進会議や職員のミーティングで報告している。運営推進会議への地域包括支援センターの職員の参加や金銭出納帳の記入方法の改善など外部評価の結果を活かした取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員一人ひとりが全項目について個々で評価・記録して、管理者がまとめて作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は町内会長・民生委員・老人会長・家族・地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月に1回開催している。利用者の現状報告や介護、感染症や事故防止などについて意見交換が行われている。また地域の行事などの情報を知る機会となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は年1回敬老会の後にあり、家族から意見を聞く機会を作っている。職員は家族とのコミュニケーションを大切にして、苦情や相談が言える関係作りに努めている。家族より「利用者の様子を知りたい」という要望があり定期的なおたよりと面会の時に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して地域の一人として生活している。ホームの敬老会やクリスマス会には地域の人にも声をかけている。踊りや三味線などもボランティアで参加していただき一緒に楽しんでいる。谷山ふるさとまつりや夏祭りに参加して、地域の人と交流する機会をつくっている。近くのスーパーにもよく出かけて、従業員や地元の人と顔見知りの交流関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者、家族、職員、地域の方もゆっくり、楽しく、いっしょに、笑顔でともに輝いた日々を送れるように」という思いの事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで理念の実践について話し合っている。日々の会話や食事、入浴、趣味の時間など共に過ごす中で、理念を意識してゆっくりとした時間を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して地域の一員として生活している。ホームの敬老会やクリスマス会には地域の方にも声をかけている。踊りや三味線などもボランティアで参加していただき一緒に楽しんでいる。谷山ふるさとまつりや夏祭りに参加して、地域の人と交流する機会をつくっている。近くのスーパーにもよく出かけて、従業員や地元の人と顔見知りの交関係を築いている。	○	学生も多く暮らす地域であり、運営推進会議でも国際大学のボランティアグループの活用の声も上っているので、坂之上ならではの地域のおつきあいを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価の全項目について個々で評価・記録して、管理者がまとめて作り上げている。外部評価の結果は、運営推進会議や職員のミーティングで報告している。運営推進会議への地域包括支援センターの職員の参加や金銭出納帳の記入方法の改善など外部評価の結果を活かした取り組みをしている。	○	職員一人ひとりの個々の自己評価にとどまらず、全体で意見交換をして、事業所としての自己評価を明確にし、さらに外部評価の結果をふまえて具体的な改善に活かしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内会長・民生委員・老人会長・家族・地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月に1回開催している。利用者の現状報告や介護の現状、感染症や事故防止などについて意見交換が行われている。また地域の行事などの情報を知る機会となっている。	○	近くの交番や消防署の人、地域の他のメンバーの参加を働きかけて、現状報告や相談、また参加者の意見をサービスの質の向上に活かしていただきたい。

鹿児島県 グループホームいろいろの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年地域包括支援センターに働きかけて、運営推進会議に参加していただいている。市の保護課への手続きや相談は行っているが、介護保険課の担当者との連携はない。	○	外部評価の報告や介護の相談などの機会をとおして、市の担当者との連携を取り、共に介護サービスの向上につなげてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族に送られるおたよりには、利用者の健康状態や生活の様子が写真と担当職員の言葉で記録されている。家族の面会時や年1回の家族会でも家族の聞きたいことが伝えられるように努めている。金銭管理は家族の面会時に報告をしてサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回敬老会の後にあり、家族から意見を聞く機会を作っている。職員は家族とのコミュニケーションを大切にして、苦情や相談が言える関係作りに努めている。家族より「利用者の様子を知りたい」という要望があり定期的なおたよりと面会の時に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階のグループホームの職員の異動はなく、併設されている2階のデイサービスや宅老所の職員との交流もあり、「いろいろの家」全体でなじみの関係を築いている。職員の採用時にはなじみの関係について理解してもらい、永く働いてもらうことをお願いするなど、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を中心に研修計画が作成されており、研修に参加した職員はミーティングで報告している。谷山地区のグループホーム協議会の勉強会に参加している。	○	職員の希望や段階に応じた研修内容も検討され、事業所内、外の研修を実践につなげていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加して情報交換をしている。また谷山ふるさと祭りなどの地域の行事に参加している時に同業者と交流する機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者・家族にホームを見学してもらい納得してサービスを開始するようにしている。また管理者が利用者の自宅や入院している病院を訪問して、関係づくりに努めている。家族に面会の協力をもらい、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人から昔ながらの知恵やものを大切にすることなど学ぶことも多い。編み物や歩行練習など「リハビリだから」と前向きに努力する姿にはげまされたり、本人からのありがとうの言葉に支えられている。食事でも「おいしい、まずい」と本音が言えるなど、共に過ごしあえる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者の表情・行動・言動から利用者の思いや意向を把握するように努めている。アセスメントはセンター方式を活用して、生活歴や現在の介護や医療、日々の暮らしへの思いを本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医の意見も取り入れ、介護計画を作成している。本人の生活歴や趣味なども計画の中に盛り込み暮らしを支える計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画の見直しは6ヶ月に1回であるが、毎月のミーティングで計画の確認をしている。本人の状態や要望、訪問診療でのかかりつけ医の意見をもとに、必要に応じて随時見直しをしている。		

鹿児島県 グループホームいろりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、病院受診・デイサービスの送迎や外出など柔軟に対応している。併設しているデイサービス、宅老所と連携して多機能を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。定期的受診は月1回、訪問診療が月2回あり、かかりつけ医から病状や医療・介護上の留意点など情報提供をいただいている。事業所として適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針があり、入居時に家族に説明している。必要に応じて本人、家族、かかりつけ医、職員で話し合い方針を共有している。今後は事業所として「できること」を見極め、具体的な方針を検討していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活のどんな場面(会話、排泄、入浴、失禁後など)でも利用者の自尊心を傷つけないように誠意を持って対応している。個人記録などは事務所に保管され取り扱いにも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、昼寝、就寝時間も本人のペースにあわせて1日の時間が流れている。食事に時間をかける人、買い物や美容院に出かける人、趣味の時間を過ごすなど、本人の希望にそって支援している。		

鹿児島県 グループホームいろいろの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の意見を聞き食事のメニューを決めている。食事の下ごしらえや配膳、お盆拭きなど利用者の力量にあわせて職員と一緒にしている。介助の必要な人にもさりげなく対応しながら、職員と利用者が一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望に応じて支援している。入浴を拒む方へは状況を見ながら声かけをするなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大正琴や編み物、ぬりえなど利用者の趣味を活かしたり、買い物や散歩など気晴らしの支援をしている。「○美術館」として利用者の作品が掲示されている。食事の準備や洗濯物配りなど利用者の役割も大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩や買い物、ドライブ(慈眼寺、錦江湾公園など)に出かけている。外出する時はその日の体調に合わせて時間を調整している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。さり気なく声かけをしたり、見守りながら安全で自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練を含め年2回避難訓練を実施している。自主消防隊として職員の役割を決めており、食料の備蓄もしている。スプリンクラーの設置を市に申請している。	○	近隣が住宅街でもあり、災害対策は事業所だけでなく地域との連携も必要である。運営推進会議を活用して地域の協力体制などを具体的に検討されることを期待したい。また年2回の定期的訓練とさらに自主訓練を行い、職員が自信を持って避難誘導できることが望まれる。

鹿児島県 グループホームいろりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1日1400～1500kcal、水分は1000mlを目安にして摂取量をチェックしている。利用者の健康状態や好み、食べる力に応じて調理法なども工夫し栄養のバランスにも配慮している。定期的な体重測定や血液検査で栄養状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	梅の木が植えてある中庭は、日当たりがよく、一人またみんなでお茶のみなどゆっくり過ごせる場所である。ひな飾りなど季節を感じられる食堂兼居間で思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの洗面台やベット、押入れがあり、必要に応じてポータブルトイレが置いてある。テレビやタンス、冷蔵庫、位牌など利用者が使い慣れたものも持ち込まれて、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。		